

パネルディスカッション3

高気圧酸素療法における放射線治療の皮膚障害への効果

平塚理沙¹⁾ 関根万里¹⁾ 土居 浩²⁾

1) 公社荏原病院 皮膚科
2) 公社荏原病院 脳外科

今回我々は、高気圧酸素療法で治療した放射線皮膚障害を5例経験した。

1例は、60代女性。

心筋梗塞の心臓カテーテルを施行した後に背部に潰瘍を形成。高圧酸素療法を約半月で10回施行。潰瘍部は植皮を行い上皮化した。

2例目は、50代女性。

子宮頸癌の膣壁再発に対して放射線治療を施行。施行1か月後に陰部に皮膚潰瘍が出現し、改善がないため、高圧酸素療法を開始した。約3か月で計34回施行。

3例目は、70代女性。右乳がんの放射線治療後の同部位に皮膚潰瘍が出現。外用薬を使用するも改善がないため、治療後25年を経て高圧酸素療法を開始した。皮膚潰瘍治療薬を併用し、高気圧酸素療法を約2年4か月で計129回施行し、潰瘍は上皮化した。

4例目は、両側乳癌の40代女性。乳房温存治療で約1か月放射線治療を施行。両側乳房の発赤・乳頭部の潰瘍に対して高圧酸素療法を施行。皮膚潰瘍治療薬を併用し、約3か月で計16回施行。潰瘍は上皮化した。

5例目は、40代女性。右乳癌に対して、約1か月放射線治療を施行の皮膚炎に対して高圧酸素療法を計10回施行。潰瘍は

上皮化した。

高圧酸素療法は放射線皮膚障害に対して有効であると考ええる。